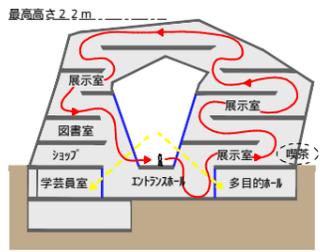


- ・1階アプローチ  
建築の足下は解放され様々な方向から自由に来訪できるオープンスペースとなっています。来訪者は吹き抜けを通して、地下エントランスホールへと降り立ちます。
- ・地下エントランスホール  
諸室が面する「円環」の足下です。ここから北斎を巡る「旅」が始まります。
- ・展示室  
展示室は吹き抜けを介して動線、空間的につながりながら吹き抜け部分は光にあふれた空間です。

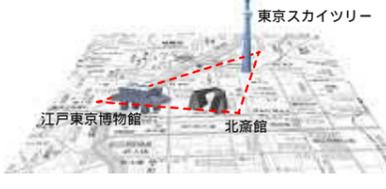
**構造計画**  
堅固に構成されたRC造の地下部分上の3次元に展開する鉄骨フレームにより地震時水平力に抗する自立した構造を形成します。各階床は格子梁とし、無柱空間を実現します。



**断面構成**  
地上は建築の間を自由に通り抜けができるオープンスペースとします。来訪者は地下エントランスホールから積層された展示空間をめくり、帰ってきます。展示空間は各階の吹き抜けによってつながる一体となった流動的空間とします。1階吹き抜けから差し込む光にあふれた地下エントランスには諸室が面しており地下でありながら快適な環境をつくり出します。



**3つのモニュメンタルピーク**  
江戸東京博物館、建設される東京スカイツリーそして北斎館がランドマークとして、三角形を描き域内の交流を活性化する観光・産業の拠点となります。そのために北斎館には他の2施設に比肩するシンボル性を付与します。

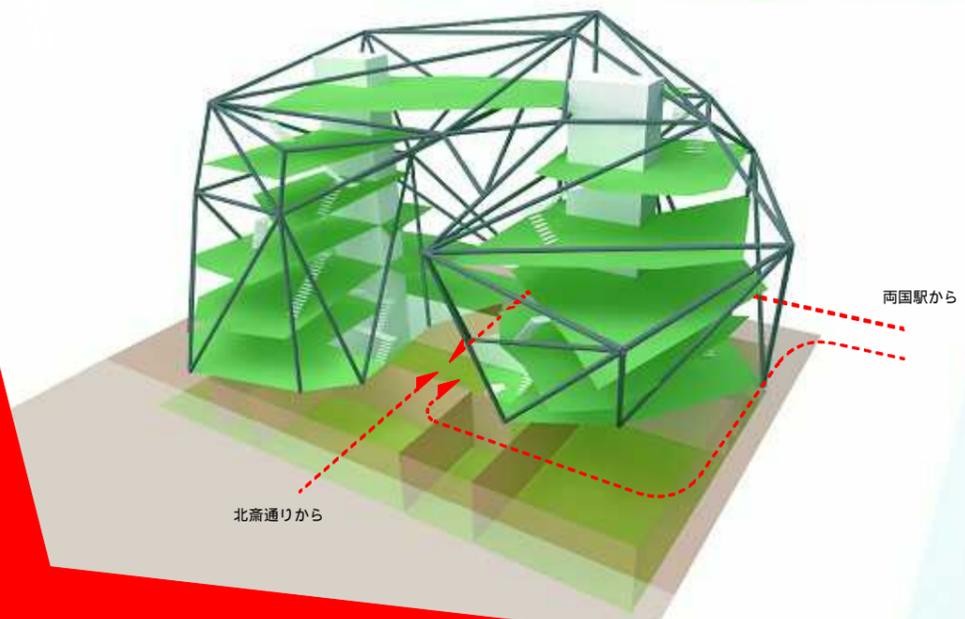
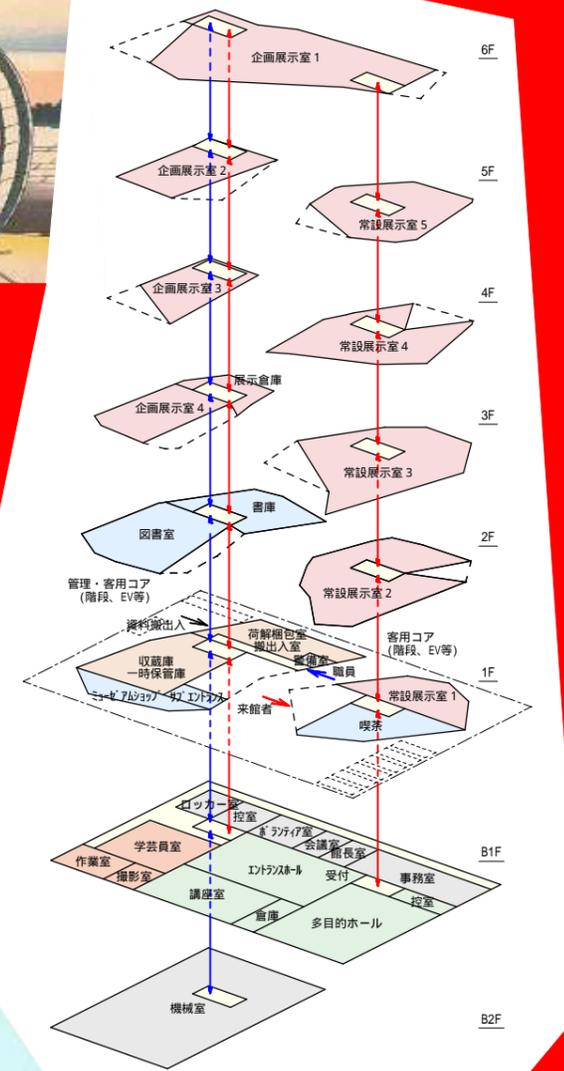


**「破調」**  
北斎絵画のもつ、自由で流動性あるダイナミズムを、動的で不安定な状態を瞬間に凝固した形態によって実現しています。  
(富嶽三十六景 神奈川沖浪裏)



**BROKEN LOOP 破調の円環**  
HOKUSAI MUSEUM 北斎館

時代の革新者であった北斎の精神を体現するものとして、建築は奇烈で発信力のある形態を必要としています。われわれはそれに「破調の円環」を作り出すことによって答えます。北斎の自由で変幻自在の作風、また絵画自体がもつ流動性のあるダイナミズム＝「破調」を表象するものとして、動的で不安定な状態を瞬間に凝固した形態を目指します。来訪者動線は地下エントランスホールから積層された展示空間をめくり、頂部に達し、下降し、帰ってきます。動線は直截な「円環」を形成します。円環をめぐることは偉大な北斎の人生の軌跡を追体験する旅となります。「軌跡」は起立し、我々の精神を刺激し続けるのです。



・全体を見下ろす  
建築の足下は公園と一体になったオープンスペースとなり、自由な来訪を誘発します。

・北斎通りより外観を見る  
公園を通して「円環」が人々を招き入れます。

・総武本線高架橋、两国駅方面より見る  
奇烈な形態を人々に発信し続けます。

通常の展示室を巡る動線は円環をめぐるりますが、優しいアクセスのためにエントランス両端に客用EVを配します。地下諸室はエントランスにガラスで差し、1階吹き抜けを通した光が差し込む快適な環境となります。

面積表 (㎡)	
ゾーン	ゾーン面積
	計画面積 (要求)
導入サービス	317.0 (345)
展示	1,080.0 (1,080)
教育普及	563.8 (560)
調査研究	140.5 (125)
収蔵	194.0 (230)
管理	589.3 (560)
共用その他	534.4 (600)
合計	3,419.0 (3,500)
建築面積	700.1㎡
延床面積	3,419.0㎡
最高高さ	22m